



前田万葉枢機卿の説教

### 神戸バイブル・ハウスとは

【解説】 クリスチャンセンター神戸バイブル・ハウスは、日本で唯一の聖書ライブラリーであり、キリスト教諸教派が相互の一致と協力の上で運営されています。

貴重な聖書資料やさまざまな聖書を所蔵し、聖書の普及に貢献しつつ、講演会やセミナー、音楽会、展示会、美術展、巡礼旅行など多彩な活動を通して、福音を証する働きを推進しています。1904年(明治37年)、「大英国聖書会社」(BFBS)と「北英国(スコットランド)聖書会社」(NRSS)が神戸居留地において聖書事業を開始し、バイブル・ハウスにて聖書刊行・販売事業を展開したことにルーツがあります。太平洋戦争により初代バイブル・ハウスは閉鎖を余儀なくされました。

2001年に神戸聖書展が開催され成功を収めたことで、神戸の地で恒久的なクリスチャンセンターを創設し聖書を伝える働きを再開しようとする活動が始まり、2003年、神戸バイブル・ハウスがスタートしました。

長く理事長を務められた、池長潤名誉大司教は、「神戸バイブル・ハウスは、聖書の紹介と普及、キリスト教の世界を伝える宣教の業を担う組織であり、活動を通して(諸教派の人びと)が交わりを深め、「共存」の喜びを分かち合う場(ニューズレターより)であると述べられています。

(20周年記念誌より)

### 千里ニュータウン教会献堂50周年感謝ミサ

## 春光や千里五十路のペトロ堂

4月23日、前田万葉大司教の司式により、千里ニュータウン教会献堂50周年感謝ミサがささげられた。

聖堂には150人ほどの信徒が参列し、コロナ禍で繰り返された主日ミサの中断以来、久しぶりに来られた方も多く見受けられた。この聖堂は保護の聖人として聖ペトロを選び、初代主任司祭(梅原彰神父)の時代に建立され、歴代主任司祭や数多くの先達の方々の御苦勞の下に維持、拡大される中で、信者たちの数々の思いを刻みながら、このたび50年の節目をむかえた。

前田大司教は説教の中で、「キリストを土台とする教会」は「神の民の共同体」であり、「神が共におられる民の家・祈りの家」であり、さらにキリストの住まいとして私たちを育てていくところであると話された。また大司教は4人の堅信者に「教会の土台堅信復活祭」と句を詠まれ、堅信は信仰上の成人式であると言えること、堅信によって大人の信仰になる、成熟するという

恵みをいただくということ、そして私たちはキリストの証し人として、一人前の宣教者になると話された。大司教の訪れそのものが大きな喜びであり、とりわけ大司教司式による献堂50周年の感謝ミサは、千里ニュータウン教会の歴史において大きな喜びとして記憶され、さらに堅信の儀において聖霊が注がれた出来事も含めて、51年目を歩み出す千里ニュータウン教会の福音宣教に力を与えることだろう。

(文 千里ニュータウン教会)



# 神戸の地に20年

## 神戸バイブル・ハウス20周年を祝う

クリスチャンセンター神戸バイブル・ハウス(神戸市中央区磯上通・「神戸バイブル・ハウスとは」左囲み参照)は、4月15日(土)、神戸栄光教会において創立20周年の記念イベントを開催した。

第一部 記念礼拝、第二部 感謝と祝賀、第三部 陣内太蔵コンサートにのべ350人が参加し、これまでの歩みを振り返りつつ、「進化・展開」をキーワードに、これからの歩みに向けた決意を新たにしました。

### 第一部

創立20周年記念式典は「Mission Forward! 進化・展開(希望のことばをひろめるために)」をテーマに取り組まれた。美しいパイプオルガンの音色で始まった第一部の記念礼拝では、前田万葉枢機卿が「なぜ『みことば』を伝えるのか」をテーマに説教を行った。前田枢機卿は、バイブル・ハウスが30周年を越えて長く発展するようにと願っていると語り、日本で唯一の聖書図書館と

### 第二部

あなたがかい祈りのうちに第一部が終わり、続いて第二部 感謝と祝賀

### 第三部

昼食休憩をはさんで、陣内太蔵コンサートが行われた。陣内太蔵牧

師は、「ミュージシャン&クリスチャン」をテーマに日本基督教団東美教会(東京吉祥寺)の主任牧師を務めながら、全国各地でチャーチコンサートを行っている。会場では、「音楽」業界と「教会」両方で働いていると語り、笑いが広がり聴衆を和ませていた。子どもたちから経験した教会の日常風景を笑いに変えながら、「空よ」、「心の扉」、「僕は風君は空」などオリジナルソングを披露し、記念イベントに花を添えた。

最後にあいさつに立った陣内太蔵理事は、20周年の記念事業として取り組まれている記念募金や友の会の会員募集はこれからも続けられると報告し、新たに教会単位でバイブル・ハウスを支援する取り組み「イクトウス」が始められたことに触れ、それら活動への協力を呼びかけた。さらに、さまざまな要因が重なりしばらく開催することができなかつた神戸市民クリスマスを、12月に神戸文化ホールで行うとの発表があった。神戸市民クリスマスを神戸バイブル・ハウスが主体となって復活させ、20周年イベントのファイナルとするとのことだ。

20周年を迎えた神戸バイブル・ハウスは、30周年に向けてこれまでの活動を一層充実させると同時に、新たな展開を目指して、その一歩を踏み出した。

(文 広報委員会 委員長 川郵裕明)

## 20周年記念式典



陣内太蔵牧師コンサート



### 関学グリーの合唱

